



～万葉テラスだより～ 平成30年3月 第12号

桃の節句も過ぎ、春らしくなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。2月に万葉テラスで行ったイベントの紹介と、言語聴覚士による「加齢に伴う聴力の低下」を掲載しておりますので、ご参考にしていただければ幸いです。

## ～イベント紹介～

### 4F入所フロア

2月16日（金）に誕生日会を行いました。今回は、“豆まき会”を行いました。内容は、点数式玉入れゲームで、赤鬼と青鬼の目に入れば200点、鼻に入れば100点、口に入れば50点としました。利用者様には、2チームに分かれてもらい、5玉ずつ“鬼は外、福は内”の掛け声と共に投げていただきました。「的が上手いこと作ってあるから、入らんわ」、「思いっきりほろう」、「スッキリするな」、「歳の数だけ投げさせて」などの冗談も言いながら、楽しまれていました。結果は、青鬼7,100点、赤鬼8,150点で、赤鬼チームの勝利でした。最後に、『北国の春』を歌い、笑顔の中、幕を閉じました。



### 通所リハビリテーション



2月は節分にちなんで、“おじゃみ(お手玉)で鬼退治”ゲームを開催しました。段ボールで作った1.3mの巨大赤鬼の目・鼻・口に穴を開け、それぞれに点数を付けました。隣りには、可愛いミニサイズの鬼たちが点数をつけて並んでいます。鬼を目掛けておじゃみ(お手玉)を投げ、点数を競っていただきました。皆さん、「鬼は外～」の掛け声を出しながら、鬼に向かっておじゃみ(お手玉)を投げられていました。普段おしとやかな女性利用者様も、「コノヤロー」と言いながら、皆が驚くくらいの力強い球を投げられ、皆さん大爆笑でした。

# 加齢に伴う聴力低下

耳の構造は、外耳、中耳、内耳に分けられています。

外耳から入った音は、中耳を通過して、内耳にある蝸牛(かぎゅう)に伝わります。

蝸牛には有毛細胞があり、鼓膜から伝わってきた音の振動を電気信号に変えて脳へ送る役割をしています。

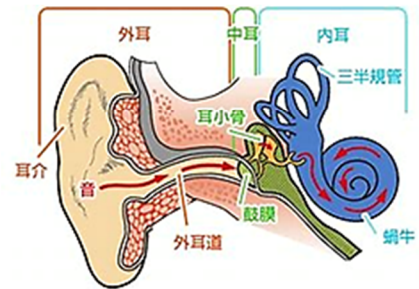
これが音を聞き取る仕組みです。

高周波数の音(高音)は蝸牛の入り口付近にある有毛細胞が担当し、低音になるほど蝸牛の奥(頂点)にある有毛細胞が担当する仕組みになっています。そのため、蝸牛入り口付近に配置されている高音担当の有毛細胞は、常に様々な音にさらされることになります。

様々な音にさらされ続けた細胞は次第にダメージを受け、最終的には破壊されてしまいます。このため加齢とともに低音域より高音域の音は聞こえにくくなると考えられています。

加齢性難聴には音に対する聴力が低下するだけでなく、言葉に対する聴力が低下するという大きな特徴があります。これは、集中力の低下や脳幹での情報処理速度の低下などの影響によって、騒音下での言葉の聞き取りが悪化したり、複雑に変化する会話の音情報を分析しきれなくなったりするためだと考えられています。

難聴が高齢者に与える影響としては、認知機能の低下、社会的孤立、抑うつなどが報告されています。加齢性難聴は単に聞こえにくいという問題だけではないことを理解し、補聴器の使用やコミュニケーション方法の工夫など必要に応じた対応が大切です。



## 【加齢性難聴者とのコミュニケーション工夫例】

- ① 雑音の少ない場所を選ぶ
- ② 話す前に自分に注意を向けるように促す
- ③ 相手の顔を見る
- ④ 適度にゆっくり、大きな声で話す
- ⑤ 上手く伝わらない時は言葉を言い換えて伝える
- ⑥ 口頭で伝わらないときは文字を用いて伝える 等



リハビリ室 言語聴覚士  
森 里枝



〒634-0832 奈良県橿原市五井町 247

介護老人保健施設 万葉テラス



Tel : 0744-26-2288 Fax : 0744-26-2277

入所 80 床 (全床認知症専門棟) 通所リハビリテーション 40 名